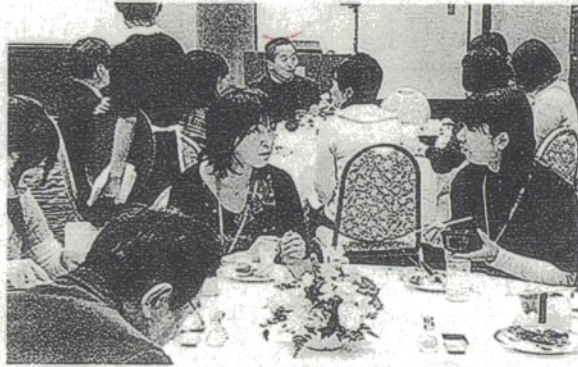


地域に若手医師を 滋賀医大の取り組み

医師不足の中、地元の医大を卒業した若手医師 大(大津市)を卒業して地域で働く先鋒医師がの流出を食い止めようと、中部地方の各県は引き「里親」となって、学生との結びつきを深める事業の策に知恵を絞っている。滋賀県では、滋賀医大に取り組んでいる。(小西敦紀)



懇談会でふれあう「里親」の先鋒医師と学生＝滋賀県草津市で

里親事業は、医学部の一、二年生が対象。卒業生の医師が定期的な懇談会で食事をしながら近況を話し合う。

先鋒医師の姿を間近に見て自身の将来像をイメージし、地域医療の担い手となる意識を高めてもらう狙いだ。二年前から募集を開始。現在、学生五十一人と里親四十四人が登録している。ヨットやテニスなど共通の趣味でつながるペアもある。

先輩が学生の「里親」

中部各県も引き留め策

三重県は昨年から、御浜町の紀南病院に設けた「地域医療研修センター」で、研修医がへき地の患者を「田舎へ」の心と愛を持ってもらおうと「柵田」丸山千枝田一での田植えや、地引き網体験も計画する。

へき地での訪問研修

三重 へき地での訪問研修 三重県は昨年から、御浜町の紀南病院に設けた「地域医療研修センター」で、研修医がへき地の患者を「田舎へ」の心と愛を持ってもらおうと「柵田」丸山千枝田一での田植えや、地引き網体験も計画する。

意向に沿う機関紹介

長野 意向に沿う機関紹介 長野県は、県内の高校生を対象に、大学教授や医学部に話を聞く「医学部進学セミナー」を開催。研修医に臨床研修先を紹介する「明日の石川の医療を担う若手医師の集い」も開催。県出身医学生に地域医療人材バンクへの登録を呼び掛けている。

ペア組み懇談会で交流 研修旅行も

「役立ちたい」「実情身近に」



二日、県内の医療機関を回る研修旅行もある。琵琶湖に浮かぶ人口四百人の島での巡回診療の様子を見学したり、医師不足で閉鎖した病棟など、大学の講義では見ることのできない地域医療の現場を知ることができた。

研修旅行で病院のリハビリ施設について医師から説明を受ける学生たち＝滋賀県湖南市の甲西リハビリ病院で

医療取材班 - iryouhan@chunichi.co.jp

里親学生支援委員の埴田和史准教授(衛生学)は「大学内で学生が接する医師は、ほとんどが研究者。学生は研究者とは違う医師像を求めている」と、意識のずれを埋める取り組みの意義を語る。



外来

八年前に夫を失いました。六十一歳でした。そのときお世話になった病院の先生や看護師さんには心から感謝しています。先生はいつも夜八時、九時ごろに病室をのぞいてくださり雑談をして帰られました。疲れておられる様子なのに、いつも優しい笑顔でした。看護師さんにも明るく接していただき、暗くなりがちな私たちを元気づけてくれました。

優しさが支えに。診察中に無駄話

市民病院へ乳がん検診に行きました。丁寧に診てもらえたのど思っていたのですが、男性の医師は触診の間、ずっと看護師に無関係な話をしていた。看護師も仕方ない感じで相づちを打っていました。

つなごう医療 13

中部の最前線